

第27回 宝塚混声合唱団音楽会

Beethoven

op.112「静かな海と楽しい航海」

op.123「荘厳ミサ」

“Von Herzen —
Möge es wieder
zu Herzen gehen!”

心より出で、—— 願わくば、再び心に至らんことを!

2015年7月25日(土)

いたみホール(伊丹市立文化会館)

開場 PM 1:30 開演 PM 2:00

後援: 宝塚市・伊丹市・宝塚市教育委員会・宝塚市文化財団
宝塚合唱連盟・兵庫県合唱連盟

ごあいさつ

本日は、私たち宝塚混声合唱団の第27回音楽会にお越しいただき、誠にありがとうございます。

去年は、新指導者畑 儀文先生のもと、多くのご来場者の前でハイドンのオラトリオ「四季」を気持ち新たにご披露いたしました。

今回は、ベートーヴェン「荘厳ミサ」に取り組みました。リズム・調性の跳躍著しい難曲ですが、「合唱は、チャレンジとアドベンチャー」と練習を重ねてまいりました。健康を取り戻した作曲者の喜びと神への感謝の思いを、皆さまにお届けできれば、これほどの喜びはありません。

最後までごゆっくりご鑑賞いただくとともに、今後とも宝塚混声合唱団の活動に、ご指導ご支援をよろしくお願いいたします。

2015年7月 宝塚混声合唱団



Program

Beethoven

「静かな海と楽しい航海」 op.112

Meeres Stille
Glückliche Fahrt

「荘厳ミサ」プレトーク：畑 儀文

————— 休憩 —————

Beethoven

「荘厳ミサ」 op.123

Kyrie
Gloria
Credo
Sanctus
Agnus Dei

指揮 畑 儀文

独唱 辻井 亜季穂 (ソプラノ)
福嶋 あかね (メゾソプラノ)
松原 友 (テノール)
篠部 信宏 (バス)

オーケストラ アンサンブル・ムジカ・アニマ

ベートーヴェン 「荘厳ミサ」

1. ベートーヴェンの生涯

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770～1827年)はフランス革命から国民国家形成へとヨーロッパが激動する時代に生きて、ハイドン、モーツァルトによって形成された古典派音楽を市民音楽として完成させた音楽史上の巨匠です。

1770年、ライン河畔のボンにオランダ系ドイツ人として音楽家の家庭に生まれたベートーヴェンは早くから楽才を示し、15歳で宮廷のオルガン奏者に就任しました。翌々年ウィーンに旅してモーツァルトを訪ね、才能を認められますが、母の病状悪化の報せでボンに戻りました。母の死後は失職した父に代わって家庭教師などで家計を支えながらボン大学に聴講生として学び、ゲーテ、シラーの詩やカントの啓蒙哲学に親しみ、隣国フランス革命の精神“自由・平等・友愛”に大きな影響を受けました。

1792年、ボン宮廷の支援を得てウィーンに移住し、ハイドンやサリエリに師事してピアノ演奏の名手として腕を磨きながら作曲や指揮を行うようになりました。天才音楽家としての名声が高まり、ウィーンの進歩派貴族や文化人との交遊が広がった30歳頃から難聴に苦しみ、1802年にウィーン近郊のハイリゲンシュタットで遺書を書きますが、起死回生して、以後10年余にわたり、ロマン・ロランが“傑作の森”と呼んだ中期の傑作(交響曲第3番「英雄」第5番「運命」第6番「田園」ピアノソナタ「熱情」ヴァイオリンソナタ「クロイツェル」ピアノ協奏曲「皇帝」など)を次々と生み出しました。1812年にはかねて尊敬していた文豪ゲーテとボヘミアの保養地テュープリッツで邂逅し会見する機会を得ています。

オーストリアの首都ウィーンは1805年と1809年の2度にわたってナポレオン軍に占領されましたが、1814年にはナポレオンの失脚によって混乱したヨーロッパの秩序を回復するため宰相メッテルニヒの下に「ウィーン講和会議」が開かれ、各国から君主、外交官など1万人以上の人々が集って空前の賑わいを呈しました。会議ではオペラ「フィデリオ」と交響曲第7番が上演され、ベートーヴェンの人気は絶頂に達しましたが、この頃から彼を保護してく

れた貴族の相次ぐ死や戦後インフレの昂進による収入の激減、実弟の死に伴う甥カールの後見の負担などが重なってスランプに陥り、1816年以降は病気がちとなって宿痾の耳疾もさらに悪化して会話が不自由となり筆談帳が欠かせるようになりました。

しかし孤独と心身の苦悩のせめぎ合いのなかで、ベートーヴェンの精神は晩年の10年間に磨かれ、深められて時代に先駆けた全人類的、全宇宙的なものとなり、劇的、情熱的な2つの大曲「荘厳ミサ」と「交響曲第9番(合唱付)」、そして典雅な5曲の後期弦楽四重奏曲など未到達の境地に迫る名曲を書き残して、1827年に悩み深かった56年の生涯を閉じました。葬儀には2万人を超えるウィーン市民が参列し、シューベルトもその中の一人でした。

2. 曲目解説

カンタータ「静かな海と楽しい航海」 op.112

ベートーヴェンはゲーテの詩にいくつかの声楽曲を書いています。この曲は2つの詩に付曲した管弦楽と4部合唱から成るカンタータで、1814年に作曲され、翌15年にウィーンで初演されました。

ベートーヴェンは後年ゲーテに宛てた手紙に“2つの詩の対比は音楽で表現した場合でも効果は損なわれないと考えました。”と記しており、前半「静かな海」では海の深い静けさと途方もない広がり合唱がコラール風に表現し、後半「楽しい航海」では短い序奏に続き、合唱が加わって、風の神アイオロスの援けで水夫が船足をあげ、陸に向かって進んで行く光景が躍動的に歌われ、“das Land!”と繰り返して力強く締めくくられます。曲は一種の描写的な作品ですが、自然の秩序と神の支配が背景にあり、後の「荘厳ミサ」や「交響曲第9番」の創造理念につながって行くのが予感されます。ちなみにゲーテのこの2つの詩は1795年頃、イタリアのシチリア島に旅した時に作られたもので、メンデルスゾーンもまたこの詩にもとづいて1828年に同名の管弦楽の序曲を作っております。

「荘厳ミサ ニ長調」 op123

「荘厳ミサ」(ミサ・ソレムニス:「盛儀ミサ」とも呼ばれ、大規模なミサ曲の呼称)は「交響曲第9番(合唱付)」とともにベートーヴェンの全作品の頂点に立つもので、古今の数あるミサ曲のなかでもバッハの「ロ短調ミサ」と並ぶ偉大な作品とされています。ベートーヴェンの愛弟子でもありパトロンでもあったルドルフ大公(オーストリア皇帝フランツの弟)がオルミュッツ(現在のチェコ)の大司教に任ぜられたのを祝って作曲に着手されましたが、完璧を期しての推敲に体調不良が加わって4年もかかり、大公の大司教就任式から3年遅れた1823年にやっと完成しました。1824年にサンクトペテルブルクでの試演に続き、ウィーンで「交響曲第9番」と同時に一部省略のうえ初演され、満員の聴衆から熱狂的な喝采の拍手を浴びました。

曲はミサ通常文(ラテン語)によるキリエ、グローリア、クレド、サンクトゥス、アニウス・デイの5章からなっており、オーケストラと独唱、合唱各4部で演奏されますが、歌詞の扱いが従来ミサ曲とは異なり、また冒頭(自筆譜)に“Von Herzen – Möge es wieder zu Herzen gehen!”(心より出で、一願わくば、再び心に至らんことを!)と記入され、終章第2部(ドナ・ノビス・パーチェム)には“Bitte um innern und äußern Frieden:”(内的な平安と外的な平和を祈願して)と指示を書き込むなど、典礼音楽としてのミサ曲を超越した独自の音楽的、宗教的、思想的主張が全曲に漲っています。

第1章キリエは3部からなり短い序奏に続き力強い合唱とソロで始まる第1部に続き合唱が加わる第2部、そして第3部(第1部の再現)よりなる3部形式の荘重な祈りの曲です。

第2章グローリアは6部からなる迫りに満ちた律動的、構築的な楽章です。神の栄光を讃える第1部の合唱、ソロに合唱が加わり主への感謝を歌う第2部、合唱にソロが加わり主と神を賛美する第3部に続き、ソロと合唱が交互に静かに歌う第4部、そして力強い第5部の合唱が第6部ではフーガに発展し、ソロが加わってテンポが加速され、第1部の主題も反復されて爆発的な高揚となって結ばれます。

第3章クレドは3部からなり、作者が全霊を傾けて取り組んだと言われ、グローリアとは対照的に情感的、描写的で三位一体の神への信仰宣言の大きな楽章です。力強い合唱で第1部が開始され、ソロが加わる第2部はキリストの生誕、受難、死がテンポと調を変えながら表現され、復活が宣言され、昇天と再来が力強く賛美されます。第3部は第1部の再現に続き、輝かしい大フーガとなり、“アーメン”を繰り返しながら静かに閉じられます。

第4章サンクトゥスは2部構成となっており、前半(サンクトゥス)はソロによる静寂な祈りと主への讃美の合唱に続き“オザンナ”(フーガ)となります。フルートとヴァイオリンによる美しい間奏をはさんで後半(ベネディクトゥス)はソロ、合唱がキリストの降臨を敬虔、崇高に歌い上げて再び“オザンナ”に行きつきます。

第5章アニウス・デイは3部からなり、迫りに満ち、荘厳な最終章です。ソロと合唱による切々とした天への祈り“アニウス・デイ”(第1部)に続き、合唱とソロが“内的な平安と外的な平和への祈願”をこめて“ドナ・ノビス・パーチェム”と歌います。突如トランペットとティンパニの軍楽的な響きが審判への不安を示すソロのレチタティーヴォに変わりますが、再びもとに戻り(第2部)、終章の第3部はオーケストラのみの演奏にはじまって合唱とソロが合流し、神の威光による平和を確信する“パーチェム”の大合唱となって全曲が閉じられます。

宝塚混声合唱団は、畑 儀文 先生を指揮者にお迎えして第2回目の演奏曲目として、今回はベートーヴェンの「荘厳ミサ」にチャレンジし一年間練習に励んで参りました。

強靱な構築性に優美な叙情性を内包し、ベートーヴェン自身が“私の最大の作品”と誇った偉大な曲を、ソリスト、オーケストラと力を合せて精いっぱい歌わせていただきます。

(参考文献)

平野昭「ベートーヴェン」新潮社
青木やよひ「ゲーテとベートーヴェン」平凡社
長谷川千秋「ベートーヴェン」岩波書店
ロマン・ロラン 片山敏彦訳「ベートーヴェンの生涯」みすず書房 ほか

(テノール 福田 伸)

Meeresstille und glückliche Fahrt

「静かな海と楽しい航海」 Op.112 歌詞対訳

Meeres Stille:

Tiefe Stille herrscht im Wasser,
ohne Regung ruht das Meer,
und bekümmert sieht der Schiffer
glatte Fläche rings umher.
Keine Luft von keiner Seite!
Todesstille fürchterlich!
In der ungeheuern Weite
reget keine Welle sich.

静かな海：

深い静けさが水を覆い
海は動かず休んでいる
そして水夫は心配そうに
滑らかな水面を見回す
どこからも風はない！
恐ろしい死の静けさ！
途方もない広がりの中で
波一つ立たない

Glückliche Fahrt:

Die Nebel zerreißen,
der Himmel ist helle,
und Aeolus löset
das ängstliche Band.
Es säuseln die Winde,
es rührt sich der Schiffer.
Geschwinde! Geschwinde!
Es teilt sich die Welle,
es naht sich die Ferne;
Schon seh' ich das Land!

楽しい航海：

霧は晴れ
空は明るく
風の神アイオロスは
きちんとした縛りをゆるめる
風がそよぐ
水夫が動く
急げ！ 急げ！
波は分かれ
遠くのが近づいて来る
もう私は陸が見えるぞ！

参考文献 最新 名曲解説全集 (音楽之友社) 他
(宝塚混声合唱団・音楽会運営部編集)

Missa Solemnis

「荘厳ミサ」 Op.123 歌詞対訳

I Kyrie

Kyrie eleison.
Christe eleison.

I キリエ

主よ憐れみたまえ
キリストよ憐れみたまえ

II Gloria

Gloria in excelsis Deo,
et in terra pax hominibus bonae voluntatis.
Laudamus te, benedicimus te,
adoramus te, glorificamus te.

II グローリア

天には神に栄光
地には善意の人々に平安あれ
私たちはあなたをほめ 祝福し
崇拜し 讃えます

Gratias agimus tibi
propter magnam gloriam tuam.

私たちは感謝します
あなたの大きいなる栄光のゆえに

Domine Deus, Rex coelestis,
Deus Pater omnipotens.
Domine fili unigenite, Jesu Christe,
Domine Deus, agnus Dei, filius patris.

神である主 天の王
全能の父なる神よ
主なるひとり子イエス・キリストよ
神である主 神の子羊 父のみ子よ

Qui tollis peccata mundi,
miserere nobis,
suscipe deprecationem nostram,
qui sedes ad dexteram patris,
miserere nobis,

世の罪を取り除くお方よ
私たちに憐れんでください
私たちの願いを聞き入れてください
父の右に座っておられるお方よ
私たちに憐れんでください

Quoniam tu solus sanctus,
quoniam tu solus dominus,
quoniam tu solus altissimus, Jesu Christe,
cum Sancto Spiritu in gloria Dei patris,
amen.

あなただけが神聖
あなただけが主
あなただけが至高のお方ですから イエス・キリストよ
聖霊と共に父なる神の栄光の中で
確かに

III Credo

Credo in unum Deum,
patrem omnipotentem,
factorem coeli et terrae,
visibilium omnium et,
et invisibilium.

Credo in unum dominum Jesum Christum,
filium Dei unigenitum
et ex patre natum ante omnia saecula,

Deum de Deo, lumen de lumine,
Deum verum de Deo vero,
genitum, non factum,
consubstantialem patri,
per quem omnia facta sunt,

qui propter nos homines
et propter nostram salutem
descendit de coelis.

Et incarnatus est de spiritu sancto
ex Maria virgine,
et Homo factus est,

crucifixus etiam pro nobis,
sub Pontio Pilato
passus et sepultus est.

Et resurrexit tertia die secundum scripturas
et ascendit in coelum,
sedet ad dexteram patris,
et iterum venturus est cum gloria
judicare vivos et mortuos,
cujus regni non erit finis.

Credo in Spiritum Sanctum
Dominum et vivificantem,
qui ex patre filioque procedit,
qui cum patre et filio simul adoratur et conglorificatur,
qui locutus est per Prophetas,

Credo in unam sanctam catholicam
et apostolicam ecclesiam,
confiteor unum baptisma, in remissionem peccatorum
et exspecto resurrectionem mortuorum
et vitam venturi saeculi.
amen.

IV Sanctus

Sanctus! Dominus Deus Sabaoth.
Pleni sunt coeli et terra, gloria tua.
Osanna in excelsis.

Benedictus qui venit
in nomine Domini.
Osanna in excelsis.

V Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
miserere nobis.
Dona nobis pacem.

III クレド

私は唯一の神を信じます
全能の父を
天と地の造り主を
見えるものすべてと
見えないものの造り主を(信じます)

私は主イエス・キリストを信じます
神のひとり子を
そしてすべての時代の前に父より生まれ

神より神 光より光
まことの神よりまことの神で
造られずに生まれて
父と一体のお方を(信じます)
そのお方によってすべては造られた

そのお方は私たち人類のために
私たちの救いのために
天よりくだられた

そして聖霊によって
処女マリアから肉体を受け
人となった

さらに私たちのために十字架にかけられた
ポンティオ・ピラトのもついで
苦しみを受け 葬られた

そして聖書の通り三日目によみがえり
天に昇って
父の右に座っておられる
そして栄光のうちに再び来られる
生者と死者を裁くために
主の国は終わることがないだろう

私は主である聖霊を信じます
生命の与え主を
それは父と子より出て
父と子と共に拝みたたえられ
預言者によって語られた

私は唯一の聖なる公教の
そして信徒の教会を信じます
私は罪の許しとなる唯一の洗礼を認めます
そして死者たちの復活を
来世の生命を待ち望みます
確かに

IV サントゥス

聖なるかな! 聖なるかな万軍の神なる主
あなたの栄光は天地に満ちている
いと高き所にオザンナ

主の名によって
来られる方は祝福されるように
いと高き所にオザンナ

V アニュス・デイ

世の罪を取り除く神の子羊よ
私たちが憐れんでください
私たちに平安をあたえてください

指揮者

畑 儀文

はた よしふみ



photo:Eiji Shinohara

兵庫県篠山市生まれ。大阪音楽大学大学院修了。

1979年大阪にて、小林道夫氏の伴奏による初リサイタルを行う。以後テノールソリストとして、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団ホルン奏者ペーター・ダム氏との共演、イエルク・デームス氏の伴奏による数多くのリサイタル等で大きな成果をおさめた。

1991年オランダ・アムステルダムにおいて、バロック歌手として高名なマックス・ファン・エグモント氏のもとで研鑽を積む。以後オランダ各地において、受難週には、エヴァンゲリストとして招かれ、近年はドイツ・ライブツィヒにおいてバッハ作品のソロを務める。また1993年～1999年にかけて、シューベルト歌曲全曲演奏を成し遂げ、国内外で話題を集めた。

日本コロムビアからCD「日本のうた」「新しい日本のうた」「トスティ歌曲集」「昭和のうた」「美しき水車小屋の娘」をリリースし、その天性の歌声はジャンルを問わず心に響く感動を呼び、注目を集めている。

「大阪文化祭本賞」「咲くやこの花賞」「大阪府民劇場賞」「坂井時忠音楽賞」「兵庫県芸術奨励賞」「兵庫県文化賞」等、多数の賞を受賞。

丹波の森国際音楽祭シューベルティアードたんば音楽監督。京都女子大学非常勤講師。

ソプラノ

辻井 亜季穂

つじい あきほ



ドイツアルテンブルク・ゲラ歌劇場 専属歌手。ゾフィー《薔薇の騎士》でのデビューで大成功を収め、ムゼッタ《ボエーム》、レディーハリエット《マルタ》、マタイ受難曲等、数々のオペラ、コンサートに出演。

ザクセン州立歌劇場（ゼンパーオーパードレスデン）に客演。

大阪府立夕陽丘高等学校音楽科卒業。

愛知県立芸術大学音楽学部音楽科を経て、同大学大学院音楽研究科博士前期課程を首席で修了。中村桃子賞、平成20年度優秀学生賞受賞。

在学中には、第5回長久手国際オペラ声楽コンクール特別賞を最年少での受賞を初め、第63回全日本学生音楽コンクール2位、第19回丹羽奨励生（大幸財団）等様々な賞を受賞の他、2010年夏には上海万国博覧会で演奏する等、多くの演奏会に出演。

2011年よりDAAD（ドイツ学術交流会）給費留学生としてライブツィヒ音楽演劇大学オペラ科に留学、Master of Musicを取得。在学中よりライブツィヒ歌劇場に、クナーベ《魔笛》、羊飼いのトスカとして客演。

2013/2014シーズンには、ワイマール音楽大学附属テューリンゲン州オペラ研修所に所属、エアフルト、ワイマール、ゲラ、アルテンブルクの劇場に於ける公演に出演。

第12回Lortzingコンクール優勝、第11回ザルツブルクモーツァルト国際コンクールファイナリスト、第33回国際ハンスガボアベルヴェデーレ声楽コンクールファイナリスト（3つの特別賞を受賞）。

声楽を、河邊敦子氏、大下久深子教授、Prof. Dr. Jeanette Favaro-Reuter氏、Prof. Hans-Joachim Beyer氏に師事。

メゾソプラノ

福嶋 あかね

ふくしま あかね



兵庫県尼崎市出身。滋賀県立石山高等学校音楽科卒業。京都市立芸術大学卒業。同大学院首席修了。大学院賞受賞。

声楽を（故）村地保彦、（故）手島孝教、蔵田裕行の諸氏に、発声法をK.H.トゥットナー氏に、ドイツ歌曲解釈をC. オッカー、川村英司の両氏に師事。

オーディションに合格し、2000年ヘンデル《メサイア》アルトソロ（十束尚宏指揮）、2001年フロトー《マルタ》ナンシー役（佐藤功太郎指揮・岩田達宗演出）にてデビュー。以後、《魔笛》《椿姫》《ヘンゼルとグレーテル》《こうもり》等のオペラや、バッハ《クリスマス・オラトリオ》、ハイドン《テレジア・ミサ》、モーツァルト《戴冠式ミサ》《レクイエム》、ベートーヴェン《第九》、ロッシニ《小荘厳ミサ》《スターバト・マーテル》等、宗教曲や合唱曲のソロを多く務める。ソロの他、これまでに神戸市混声合唱団団員、ヴォーカルアンサンブルKyotoメンバーとしても活動。

2012年度バロックザール賞受賞。

現在、滋賀県立石山高等学校音楽科、京都女子大学非常勤講師。

Profile

テノール

松原 友

まつばら とも



大阪府立夕陽丘高校音楽科を経て、東京藝術大学卒業。同大学院修了。ロームミュージックファンデーション、野村財団奨学生としてミュンヘン音楽大学大学院院、ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科卒業。第51回全国学生音楽コンクール全国大会第1位。第13回日仏声楽コンクール第3位、第14回松方音楽賞、第81回、第83回日本音楽コンクール第3位・岩谷賞受賞。これまでドイツ、日本各地でのリサイタルに出演し、ミュンヘン放送管弦楽団、ノイエホフカペレミュンヘン、新日本フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団等のオーケストラと共演。NHK名曲リサイタル・クラシック・ノヴァ、ルールトリエンナーレ、小澤征爾音楽塾、サイトウキネンフェスティバル、PMF音楽祭に出演する。小澤征爾、準メルクル、インゴ・メッツマッハー、ウルフ・シルマー、飯守泰次郎、大植英次、阪哲朗、山田和樹他、国際的な指揮者と共演。バッハ「ヨハネ受難曲」「マタイ受難曲」、ヘンデル「メサイア」、ハイドン「天地創造」「四季」、モーツァルト「レクイエム」、メンデルスゾーン「讃歌」、シューマン「楽園とペリ」、A.ツィンマーマン「私は改めて太陽のもとに行われる」(日本初演)等、国内外で多くのオラトリオの公演に携わる。同志社女子大学、相愛大学、大阪音楽大学、大阪府立夕陽丘高校音楽科各非常勤講師。関西二期会会員。

バス・バリトン

篠部 信宏

しのべ のぶひろ



photo:Emi Nakagawa

大阪芸術大学大学院修了。卒業時に学長賞受賞。第1回大阪国際音楽コンクール第3位受賞。2005年より毎年渡欧、オランダにてMax van Egmond氏のもとで研鑽を積んでいる。宗教曲のソリストとして関西、東京そして日本各地の合唱団に客演。バッハ「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「短調ミサ」「クリスマス・オラトリオ」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト、フォーレ、ブラームスの各「レクイエム」、ハイドン「四季」「天地創造」、メンデルスゾーン「エリヤ」「パウロ」、ベートーヴェン「第九」「荘厳ミサ」他多数のバスソロを務める。2009年丹波の森国際音楽祭のシンボルアーティスト。リートでは2007年小林道夫氏を迎えシューベルト「白鳥の歌」全曲リサイタル、2010年オランダにてPablo Escande氏とシューマン「詩人の恋」全曲他のリサイタルにて好評を博す。現在、シノベムジカアカデミー代表、京都バッハソリスト所属、フィルハーモニーカンマーアンサンブルメンバー、日本テレマン協会ソリスト、京都女子大学非常勤講師。

チェロ／アンサンブル・ムジカ・アニマ主宰

上塚 憲一

かみづか けんいち

京都市立芸術大学卒業。チェロを黒沼俊夫、A.ビルスマ、室内楽をG.ポッセ、S.スタンデジの各氏に師事。大阪文化祭奨励賞、灘ライオンズクラブ賞、坂井時忠音楽賞を受賞。大阪音楽大学教授、同大学付属音楽院講師、西宮高等学校音楽科非常勤講師。チェロアンサンブル“エクラ”、Baroque Ensemble VOC、アンサンブル・ムジカ・アニマ主宰。西宮音楽協会会員。

バイオリン／コンサートマスター

釋 伸司

しゃく しんじ

京都市立芸術大学卒業。元テレマン室内管弦楽団コンサートマスター。現在は、いずみシンフォニエッタ大阪、マイハート弦楽四重奏団メンバー。京都フィルハーモニー室内合奏団客演コンサートマスター。室内アンサンブル・アッサンブラージュを主宰し、ホール主催公演、学校公演レコーディングなど幅広く活躍している。アンサンブル・ムジカ・アニマコンサートマスター。

オーケストラ

アンサンブル・ムジカ・アニマ

2006年上塚憲一を中心に発足したオーケストラで、主に関西で活躍する経験と実力豊かな演奏家を中心に構成される。個々の演奏家のレベルの高さから、時代考証に基づいた正統派の演奏を目指す完成度の高いオーケストラで、バロックから近代の合唱作品での演奏は共演した各方面より高い評価を得ている。

ベートーヴェン写真館

一昨年のヨハネ BACH 写真館、昨年の四季ハイドン写真館に続き、ベートーヴェン写真館で、しばしおくつろぎください。写真・文は、パス 大隅氏にお願いしました。(音楽会運営部)

【ボン/ベートーヴェンハウス】

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンは、1770年にドイツのボンにあるこの家の一室で生まれ、22歳でウィーンに活動の場を移すまで住んでいた。現在、博物館として、楽譜や遺品などが展示されている。



【ボン市内/ミンスター寺院前広場】

ボン市中心にある寺院前広場のベートーヴェン像。背後の建物は中央郵便局。

【ウィーン/ベートーヴェン広場】

市立公園の近くにあるベートーヴェン像。ベートーヴェンは17歳で初めてウィーンに行き、モーツァルトに会った。それ以降、56歳で亡くなるまで、活動の中心はここウィーンにあった。

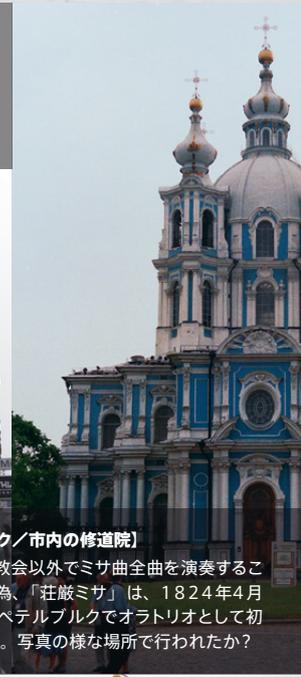


【ウィーン/カフェ「フラウエンター」】

ウィーンといえばカフェ。このカフェでは、モーツァルトやベートーヴェンも演奏会を開いた。

【ウィーン/「クレド」作曲の家】

ベートーヴェンはウィーンでなんと70回以上も引越しをしたという引越魔。アウアースベルク通りにあるこの家は、1819～20年に住んでいた家で、その間に「荘厳ミサ」の「クレド」を作曲・完成したと言われている。



【サントペテルブルク/市内の修道院】

当時ウィーンでは、教会以外でミサ曲全曲を演奏することが禁じられていた為、「荘厳ミサ」は、1824年4月にロシアのサントペテルブルクでオラトリオとして初演。初演場所は不明。写真の様な場所で行われたか？



【ウィーン/「荘厳ミサ」作曲の家】

ウィーンの南約16kmに位置するメートリンクにある家。ベートーヴェンが1820年の夏に滞在、「荘厳ミサ」を作曲した家として知られる。近くに、ピアノの名曲「ハンマクラヴィア・ソナタ」作曲の家もある。



【ウィーン/葬儀の行われた教会】

ベートーヴェンは、1827年に56歳で亡くなった。葬儀は市内のドライファルティヒカイト教会で営まれた。

【マートンヴァーシャル／ブルンスヴィック伯爵邸】
ブタベストから西へ約30kmのこの田舎町に、伯爵の広大な別荘が残されている。ここで、「不滅の恋人」との説のあった伯爵の2人の娘にピアノを教えた。



【ハイリゲンシュタット／ベートーヴェンの散歩道】(右の2点) 26歳頃に持病の難聴が徐々に悪化、人目を避ける為、ウィーンの北はずれハイリゲンシュタットに一時移住。「田園交響曲」でも有名な「ベートーヴェンの散歩道」等も残されている。



【マートンヴァーシャル／ベートーヴェン博物館】
現在、伯爵邸の一部はベートーヴェン博物館として開放されている。写真は入場券(はがき大)。

【ハイリゲンシュタット／ホイリゲ「マイヤー」のメニュー】
ホイリゲ(庶民的な酒場)「マイヤー」のメニュー。ワインの種類も多い。ベートーヴェンが嗜んだワインはどんなワイン?



【ハイリゲンシュタット／遺書の家のベートーヴェン胸像】

聴力を失ったことに絶望し、弟宛に遺書を書いたことで有名な「遺書の家」。現在は博物館として遺品等の展示がある。



【ウィーン／中央墓地】

ベートーヴェンの柩は、ヴェーリンガー墓地に埋葬された後、1888年にシューベルトと共に中央墓地に改葬された。この中央墓地には、ベートーヴェン、シューベルト、ブラームス等の楽聖が眠っている。

【ワイマール／国民劇場】

ドイッ・ワイマールの国民劇場前に立つゲーテとシラーの像。国民劇場は、芸術の中心地であると共に、1919年に有名なワイマール憲法が採択されたところとしても有名。本日の1曲目に「静かな海と楽しい航海」の詩はゲーテ、有名な「第九」はシラーの詩による。